

頭山滿 みつらみ 國粹主義者。安政二年四月十一日筑前國生れ、昭和十九年十月五日歿（八五—一九四）。書姓筒井、幼名乙次郎、八郎。號東京岳、と雲。明治八年父の外戚頭山氏を嗣ぐ。八年箱田六輔等と矯志社を組織。翌年秋の亂に關はる下獄、西南役後釋放。回志に向演説を興し來島恒喜、大原義剛等を養成、十一年向陽義塾を設け、更に結社組織してを洋社に改めたる。二十年福岡で『福陵新報』創刊。日露開戦を主張し、戦後は講和條約反對運動を展開した。大亞細亞主義を提唱し、金玉均、孫文、ラモ、ビハリ・ポーヌ等の亡命者を援助。右翼の巨頭として知られた。

著書に『膽つ玉』（大正六年十一月—十九日泰山房）、『大西郷遺訓』（講評・政教社編、大正十四年二月十日政教社）、『頭山滿翁の真面目』（直話・薄田斬雲筆録、昭和七年六月十八日平凡社）、『頭山滿翁の語』（中野刀水・雜賀鹿野編、昭和十一年十月二十日新英社）、『頭山滿翁警世百話』（田中総・中野亨・雜賀鹿野編、昭和十五年十月二十日皇國青年教育協會）、『英雄の語』（吉田頼明記、昭和十七年九月十九日時代社）等。また、吉田俊男著『天下之傑頭山滿』（明治四十五年六月十一日成功雜誌社）、藤本尚則著『巨人頭山滿翁』（大正十一年二月二十日政教社）、吉田頼明著『巨人頭山滿翁は語る』（十版・昭和十四年八月二十日感山莊）、晝津珍彦著『大アジア主義と頭山滿』（昭和四十年四月二十五日日本教文社）『日本人のたのみの国』

史に等がある。

